

池干しの広沢池

— 京都府京都市 —

京都大学大学院農学研究科 藤原正幸

1. はじめに

筆者が生まれた年にリリースされ、デューク・エイセスが歌った♪京都～大原三千院～♪で始まる歌詞で有名な大原は、京都における代表的な農村風景を残す山間の地であるが、それに匹敵するのが京都盆地の西側に位置する嵯峨であろう。特に北嵯峨の、共に観月の池として有名な大沢池と広沢池周辺を秋の夕暮れに歩くと、いにしえの人々と同じ風景を見ているのではないかと錯覚するほどである。

心には見ぬ昔こそうかびけれ

月にながむる広沢の池

(藤原良経「秋篠月清集」)

広沢池は、大分県の「初沢池」、奈良県の「猿沢池」とともに日本三沢の一つと数えられ、その起源は5世紀後半に朝鮮新羅からの帰化人秦氏によって、当時未開拓地であった嵯峨野に農業が広められたことにあると伝えられている。現在の池は、永祚元年(989年)、宇多天皇の孫にあたる寛朝僧正が遍照寺を建立した際に築堤したものが基になっているとされている。

2. 現在の広沢池

ため池百選に選ばれている現在の広沢池は、堤頂391 m、堤高3.3 m、総貯水量15.1万 m^3 、水面積約13 ha、周囲長約1.2 kmの規模で、4 haの農地を潤している。写真-1は越流長17 mの洪水吐である。池の西岸近くに橋が架けられた2つの小島があり、十一面千手観音菩薩の石像(写真-2)と弁才天が祀られている弁天堂(表紙写真)が建てられている。

毎年、12月初旬に池の水を抜き、コイやフナを収穫する「鯉揚げ」が行われる。コイ、フナ、モロコ、エビなどが水が抜かれた池の中で販売されている(写真-3)。池の畔に設けられた洛西土地改良区による解説板には、「毎年、池の水を抜き、コイやフナを収穫する、師走の風物詩「鯉揚げ」が行われますが、「水抜き」の本来の目的は、池底に溜まった泥を洗い流すことにあります。さらに、冬の間の「池干し」によって、太陽光と酸素の触れた池底の微生物が泥を分解してくれます。これらは広沢池を千年以上も守ってきた、先人から受け継がれた伝統的な農業技術であり、今も池の

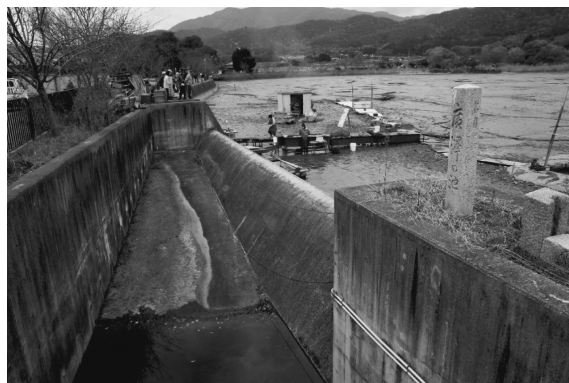


写真-1 洪水吐



写真-2 十一面千手観音菩薩の石像



写真-3 師走の風物詩「鯉揚げ」

水を用いる農家によって行われています」と、一般の人にも理解しやすいように「水抜き」とそれに続く「池干し」によるため池の維持管理が説明されている。

3. 洛西用水

京都府から選定された疏水百選は、琵琶湖疏水と洛西用水の2カ所である。京都五山別格とされる南禅寺境内の水路閣や桜並木のインクラインなどで、世間的には琵琶湖疏水の方が圧倒的に有名であるが、明治中期に建設された琵琶湖疏水に比べ、歴史的には洛西用水が圧倒的に古い。その起源は前述した泰氏による嵯峨野開発に遡る。

多くの観光客が渡る嵐山の渡月橋から上流を眺めると、頭を低くしてなるべく目立たないように横たわる井堰が見えるはずである。しかし、それが井堰であると認識する観光客はごく少数であると想像する。3回生配当授業「利水システム工学」で学生に尋ねても、ほとんどの学生は渡月橋を渡ってはいるが、井堰の存在には気づいていない。これは、その井堰が「歴史的風土特別保存地区」の風景に溶け込んでいることの証左である。その井堰の名は「一ノ井堰」、洛西用水の起点となっている。現在の一ノ井堰は、堤高1.8m、堤長154.6mで、土砂吐ゲート2門、コンクリート固定堰、魚道、^{りゅうばつろ}流筏路で構成され、昭和27年3月に建設されたものである。さらに、平成17年には小水力発電（平均出力4.3kW）が稼働して、渡月橋の常夜灯に利用されている。取水量は両岸合わせて6.92m³/sで、右岸側は中華人民共和国四川省の省都である成都市郊外に紀元前256年に完成した世界遺産の「都江堰」と似た人工島を用いた取水形式が採用されている。なお、一ノ井堰は農業土木学会誌第74巻第4号の表紙を飾っている。さらに、同じく第74巻第1号から第12号に掲載された水利遺産探訪に詳しく紹介されている。

広沢池は自流域が小さいので、一ノ井堰の上流で桂川に合流する清滝川に設けられた嵯峨清滝堰からの導水がある。嵯峨清滝堰の取水量は0.299m³/sで、農



写真-4 大沢池

地175haの用水補給を目的として、昭和30年に完成した。

洛西用水土地改良区は、上記2カ所の頭首工のほかに、桂川下流に久我井堰（堤高2.1m、堤頂214m、コンクリート固定堰、土砂吐ゲート2門、取水量1.088m³/s）を管理し、484haの農地を潤す水を制御している。現在の洛西用水は、本来の農業用水路として役立てられている一方で、都市の雨水排水路としての機能も果たしており、同じ水路で用水と排水の機能が十分発揮するように土地改良区が管理している。

4. おわりに

冒頭で紹介した歌の3番は♪京都～嵐山大覚寺～♪で始まる。大覚寺の林泉を構成しているのが前出の大沢池（写真-4）である。大沢池と広沢池はゆっくり歩いて10分ほどの距離である。♪女ひとり♪でなくとも、♪恋に疲れ♪ていなくとも、いにしえの風景に身を置き、見ぬ昔に思いを馳せてみられてはいかがでしょうか。

参 考 文 献

- 1) 京都府農林水産部耕地課整備室：嵯峨嵐山一の井堰一風景・風土を守る洛西用水、京都府広報印刷物 No.1707114 (2006)
- 2) 洛西土地改良区：洛西土地改良区概要書